

# 人類に対する三種類のさばき

この世においては多くの矛盾があります。つとめて正しいことをしようとしている人が、必ずしも良い報いを受けているとは限らず、またその反面、悪いことの限りを尽くし、多くの人々を悲しませたり、苦しめたりしている人たちが、結構、人々から称賛を受けたり、良い報いを受けていることがあります。

特別悪いことをしたわけでもないのに、人も忌み嫌うような病気にかかったり、また、耐えがたい苦しみを味わったりすることもあります。

こうしたこの世の現実を見ると、はたしてこの世のことがすべてなのかと疑問を抱かざるを得なくなります。この世においてはあまりにも不公平であり、悲惨ではないかと思わざるを得ません。この世の生の後にこの世における総精算ともいべきものが必ずあるはずで、そのことを、聖書では、

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。

(ヘブル9:27)

と記されています。この神のさばきこそ、私たちがこの世において不当な報いしか受けられなかったと思われる事柄が、すべて精算され、だれひとりとして、不公平な取り扱いを受けることがなくなります。

## (1) 救いに関わるさばき

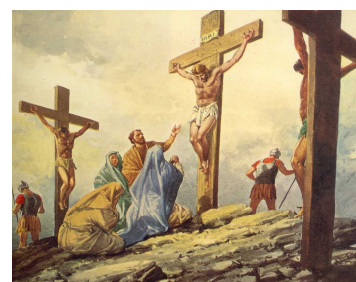
人祖アダムにあって罪人となった私たち人類を救うために、神様は驚くべき方法で、罪人を裁かれました。それは、神の御子キリストが「世の罪を取り除く神の小羊」として、天から遣わされカルバリの十字架に上げられました。

このキリストに全人類の罪を担わせ、神は義と公正をもって「人間の不義に対するのろい」を下されました。このキリストにおいて、私たち人間の罪（過去・現在・未来すべての罪）はさばかれたのです。

この身代わりのさばきによって、このキリストを信じ受け入れた者の罪は赦され、神の御前に義とされ、「アダムにある罪人」から「キリストにある義人」とされました（ロマ5:19）。

「救いに関わるさばき」は二千年前、キリストの十字架において完了しました。イエス・キリストを救い主と信じる者は二度とこの種のさばき（救いに関わるさばき）を受けることはありません。その救いが確かなことの保証としてイエスを信じる者には、聖霊の証印が押されました（エペソ1:13-14）。

《問題提起》「今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。」（コロサイ1:24／新改訳2017）。この下線部分はどういう意味でしょうか。



## (2) 報いに関わるさばき (キリストのさばきの座)

この「報いに関わるさばき」は、

私たちはみな、神のさばきの座に立つことになるのです。…ですから、私たちはそれぞれ自分について、神に申し開きをすることになります。(ロマ14:10,12)

私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。

(Ⅱコリント5:10)

と記されているさばきです。

このさばきは「救いに関わるさばき」ではありません。救いに関するものは上記(1)の通り、キリストが身代わりにさばきを受けてくださり、終了しています。

ではこの「報いに関わるさばき」というのは何でしょうか。これは信者になってから、私たちがどれほど神の恵みによって神に従順であったかの裁きであり、「行いに対する報い」、言うなれば「ご褒美を受けるさばき」と言えます。

この「キリストの裁きの座」は、いつの時点で開かれるのか。「人の死後のさばきの説明図」に記されている通り、キリストの再臨後のことです。

この時、私たちキリスト信者の状態は、どうであるかと言うと、主の空中再臨の時のことであるから、キリストを信じて義認を受け、聖化の過程を経て、聖化の完成です「栄化された時」のことです。

救いの三段階(義認・聖化・栄化)で言えば、救いの完成された時のことです。「卑しい肉のからだ」を脱ぎ捨て、「朽ちることのない栄光のからだ」を着せられます。

その時、私たちはどこにいますでしょうか。空中に引き上げられ、主と共に、主の御座のそばにいらることになります。ここは天における神の御国です。すでに天の御国に栄化された状態で入れて頂き、「キリストのさばきの座の前に立つ」というのです。

そして「善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために」とありますが、ここで「救いに関わるさばき」が繰り返されるわけではありません。誤解してはいけません。報い、ご褒美というさばきがなされるのです。この報いを受けた後、キリストの花嫁とされている私たちキリスト者は「キリストと教会の婚姻」(黙19:6-9)に入れて頂くことになります。

以下に関連の聖句を列挙します。黙示録を読むと、一般の信者が入れられるパラダイスと殉教者が入れられるパラダイスにも違いがあることがわかります(黙6:9)。これは報酬の違いです。

**Ⅱテモ 4:7-8** 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

I コリ9:25 競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

II テモ2:5 また、競技をする人も、規定にしたがって競技をしなければ栄冠を得ることはできません。

コロ1:5 それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のことばによって聞きました。

I ペテ1:4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしていただきました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

I コリ3:12-15 だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。

### (3) 不信者（キリストの救いを否んだ者）に対するさばき

このさばきの座は、大いなる白い御座です。白い御座は義なるキリストがすべての不信者の上に最後のさばきを行うところです。神が人を救うためにお与えになった救い主キリストを否んだ者たちに対するさばきです。

また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。（黙示録20:12）

彼らはすでに、道徳的にも不道徳的にも、宗教的にも非宗教的にも罪に死んだ者で、神の御子に関する神の救いの証しを拒んで軽んじた者です。いまや、数々の書物に従って「彼らの行いに応じて」さばかれます。

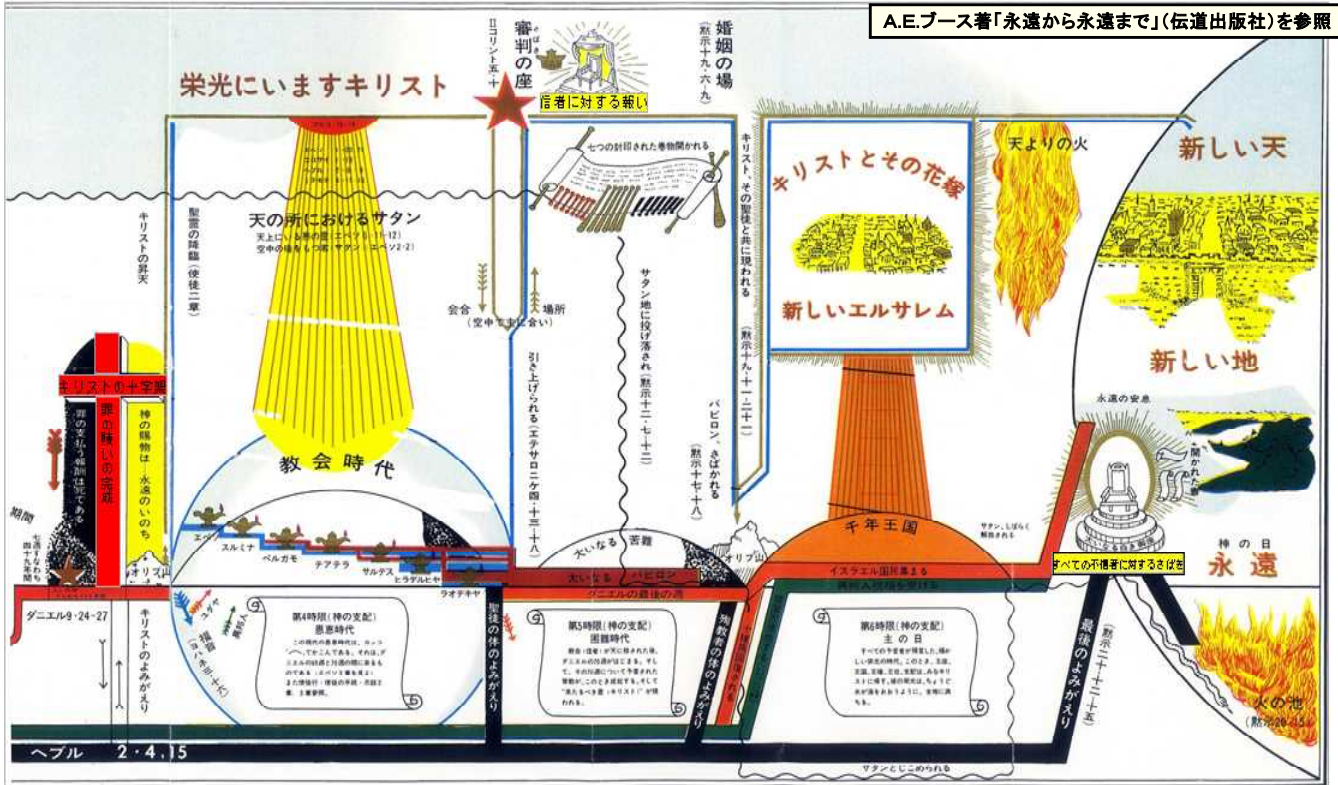
彼らは火の池に投げ入れられ、神とキリストがあがなわれた者とすべての祝福から締め出されます。そして彼らは、火の池で、悪魔とその使いたちと共に、永遠にのろわれます（黙示録20:11-15）。

(キリストの十字架から永遠の未来までに起こること)

# 人間の死後のさばきの説明図

2015.6.17更新

A.E.ブース著「永遠から永遠まで」(伝道出版社)を参照



### 【キリストのさばきの座】

大いなる苦難(大患難)の前に、キリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に生き残っているキリスト者が、たちまち彼らと一緒に雲の中に一瞬に引き上げられて空中で主と会い、イエスがとられた所に共にいるようになる(1テモ2:16)。彼らは主の力によって、主の栄光の体と同じ姿に変えられる(2コリ3:18)。そしてキリストのさばきの座に出る。福音になって後、地上でなした行為に応じて報われる(報應に關わるさばき)。約束に従って報いが与えられる(1コリ4:5-11)か(1コリ10:11)。その後、キリストと教会の婚約がある(黙示22:17)。

### 【すべての不信者に対するさばき】

罪に死んだすべての人、神に代わらないカイン以来、終わりに至るまでの人、無名の人、有名な人、喜ぶ者、痛しい者など、すべての不信者がさばきのためによみがえり、一人一人、審問される。さばきの座に置かれる(ヨハネ5:22等)。このさばきの座は、大いなる白い御座である。白い御座は神なるキリストがすべての不信者の上、最後のさばきを行うところである。「また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も、御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書き記されているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。」(黙示録20:12)。